

令和3年度生涯学習課が所管する施設の指定管理業務事業報告について

令和3年3月11日、第5回教育委員会において承認を得た「令和3年度の生涯学習課が所管する施設の指定管理業務」について、下記により令和3年度の事業の実施状況について報告する。

記

1 指定管理施設及び事業実施内容

- (1) 八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料1】・・・P2
- (2) 榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料2】・・・P7
- (3) 教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料3】・・・P12
- (4) シニア学習プラザ管理業務にかかる事業報告の概要【資料4】・・・P21
- ※令和4年度より長寿社会推進課から生涯学習課に業務移管
- (5) 郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要【資料5】・・・P27

令和 3 年度八ヶ岳荘指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

令和 3 年度利用者数 延 5,776 人

(延数)	区立中学校 移動教室等	青健事業	一般	キャンプ 施設	アウトドア キッチン	合計
令和 3 年度	2,356 人	0 人	2,455 人	353 人	408 人	5,776 人
令和 2 年度	0 人	0 人	1,932 人	319 人	275 人	2,526 人
前年度比 (増減数)	2,356% (2,356 人増)	－% (－)	127.0% (523 人増)	110.6% (34 人増)	148.3% (133 人増)	228.6% (3,250 人増)

総利用者数については、前年度比、3,250 人増（前年度比 228.6%）となった。

令和 3 年度もコロナ禍により、4 月から 6 月にかけて休館等を余儀なくされたが、それ以降は、感染拡大防止対策を講じながらも休館することなく運営を行った。移動教室についても、秋季に変更し 8 校、冬季 2 校実施することができた。全体として利用状況は回復基調にあるが、令和元年度の水準（20,023 人）には戻っていない。

なお、*青健事業は令和 3 年度もすべて中止となった。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

受付業務、食事提供、衛生管理など、運営業務全般において事業計画に基づき適正に運営を行っていた。受付業務では、利用者アンケートにおいて「スタッフの対応の親切さ」の満足度が 93%であり、親切・丁寧な接客に努めていたと評価できる。食事提供・衛生業務については、食品衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理や外部衛生検査、自主管理に努めており、料理については、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として朝食バイキングを中止したが、高原野菜や信州サーモンなど地元の食材や季節感を満喫できるようなメニューを提供した。

なお、食品に関する事故の防止については、食物アレルギー対応マニュアルの再確認や、職員研修を通じて周知等、徹底した対策を講じており、食品に関する事故は 0 件であった。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、職員及び利用者の検温の実施、各部屋・設備等のこまめな清掃・消毒、各所（受付・洗面所・トイレ・食堂など）へのアルコール消毒剤の設置、利用者が共同使用する場所（洗面所・浴室ロッカー・下足箱など）は間隔をあけるようにするとともに各所に説明書きを設置してわかりや

* 青少年健全育成地区委員会活動事業

すく明示するなどの措置を講じ、感染拡大防止を図るとともに利用者に安心して施設を利用してもらえるような取り組みを行った。

(2) 施設の維持管理

建物維持管理、備品管理、清掃・環境衛生管理・植栽等の維持管理、設備保安業務については、法定点検、日常点検を適切に実施し、いつでも問題なく稼働できるよう努めた。また、スタッフの指導・育成についても、計画的に研修等を行い、関係法令や個人情報の保護取扱規準等の順守など、安全で安定した施設運営に取り組んだ。

施設・設備の修繕工事は、必要性のある修繕か精査し、計画書の範囲内で行われていた。その他、消防設備保守点検や建築設備定期点検などの日常点検で異常の発見に努め、補修等を迅速に対応するなど、全体を通して、良好な維持管理がされていた。

3 利用者サービスの向上

(1) 利便性の提供

利用者がより快適に過ごせるよう、宿泊室に小型冷蔵庫や電気ポットの設置や、子ども連れや介護入浴等のための小浴室貸切使用等、利用者の目線に立った対応を実施している。

また、宿泊以外のサービスとして、JR 小淵沢駅・富士見駅、中央道高速バス小淵沢の送迎や、新型コロナウイルス対策として、マスクを忘れてしまった（汚れてしまった）利用者に、無償でマスクの提供を行った。

その他、アウトドアキッチンにて釜戸やハンマー等の貸し出しや、備品の使用方法を掲示するなど、安全への配慮や使いやすさを意識した改善を行った。

更に、施設のコロナ対応を各所に掲示し「見える化」するなど、利用者への周知と理解促進を試みた。

(2) アンケートの実施

利用者アンケートを実施し、利用者からの意見・要望等に対して、対応方法を検討し、改善に取り組んだ。

(3) 施設のPR

指定管理者変更を機にホームページのリニューアルを実施。空室情報カレンダーの新設や、問い合わせが多かった屋外食事メニューの写真掲載。Instagramに施設の自然や景色・天候（降雪情報等）などを発信した。

4 管理運営経費の収支状況

《収入》

項 目	予算額		決算額	
委託料		円		円
補償金		円		円
施設使用料		円		円
食事料金		円		円
合 計		円		円

《支出》

項 目	予算額		決算額	
人件費		円		円
食材費		円		円
維持管理費		円		円
修繕・工事費		円		円
本社経費		円		円
合 計		円		円

《差引》

項 目	予算額		決算額	
差引（利益）		円		円

(1) 収入

収入については、予算額に対し決算額は、 円減の %であった。令和2年度より改善はしたが、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う臨時休業及び感染拡大防止策としての利用制限等により、施設利用料及び食事料金の収入が減少した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業に伴い、休業期間中の施設利用予定者分の施設使用料等について、区より補償を行った。

移動教室及び青健事業の中止による未履行となった委託料については、指定管理者との協議により、 円が区に返還された。

(2) 支出

支出については、予算額に対し決算額は 円減の %であった。収入と同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う利用者数の減少により食材費が激減したほか、維持管理経費・人件費も減少している。

5 自主事業の実施状況

令和3年度は、コロナ禍により、自主事業による宿泊事業やクラフト体験は全て中止となった。その他、レンタル・販売は、緊急事態宣言下で一時的に提供中止（酒類）となることはあったが、年間を通じて実施した。

お土産の販売については仕入れの事情により中止した。

6 所管課の評価等

（1）評価

- ① 施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報の適切な管理を含む通常の受付業務等全般において、年度協定どおり適切に行われている。
- ② 利用者の意見・要望等については対応を検討し改善に努めている。利用者アンケート調査の結果では、施設全体の満足度 93%、食事内容の満足度 88%、職員対応の満足度 92%と良好な評価を得ている。なお、アンケート回答者の 99%が「また利用したいと思う」と回答している。
- ③ 適正な管理運営に必要な各種帳票の記録・整理状況についても、四半期毎の履行確認やモニタリング調査の際に確認している。
- ④ 新型コロナウイルス感染防止対策については、社会的に緩和する傾向が見られるが、利用者に安心してもらえるようハード面・ソフト面ともに、慎重な対策を講じている。

（2）今後の課題等

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

新型コロナウイルス感染の見通しは不明瞭ではあるが、これまでの対策の分析・検証を行い、今後も利用者が安心できる感染拡大防止策を徹底するとともに、利用者への丁寧な説明や館内表示の充実、取り組み内容のホームページへの掲載等に継続して取り組む必要がある。

② 青少年健全育成への寄与

区立中学校の移動教室等青少年健全育成を目的とした支援については、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、安心安全に施設利用ができるようにしていく。そのうえで、利用者の意見等も取り入れながら、よりよい活動ができるよう運営改善に取り組む必要がある。

なお、青健キャンプは2年間事業が中止となっていることから、再開時に向け所管部署と丁寧な調整を行う。

③ 広報活動の充実

新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に落ち込んだ利用者数を回復させていくための広報活動が必要である。

施設の魅力に加えて感染拡大防止策の取組による安心感を、どのように外部に発

信していくかが重要である。今後も様々な媒体や手法等を検討・研究し、状況に応じて効果的な広報活動を行っていく。

④ サービス向上策

大規模改修工事以降、コロナ禍により、様々な制限下での運営が続いているが、野外施設（特にキャンピングリゾーツ）は非常に人気が高い。

現在の指定管理者はアウトドア事業を得意としていることから、施設のソフト面をより充実させる好機である。

引き続き、すべての従業員が、お客様の目線に立った接遇を心がけるとともに、指定管理事業者の持つノウハウを活用した新たな事業を実施し、八ヶ岳荘の主要顧客であるリピーターへの満足を高めていくことがなりより重要と考えている。

そこに、八ヶ岳荘の魅力を積極的に発信することで、新規顧客の獲得し、早急にコロナ禍以前の利用水準に戻す必要がある。

令和 3 年度榛名林間学園指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

令和 3 年度利用者数 延 2,152 人 前年比 394.1%

(延数)	区立小学校 移動教室	青健事業	社会教育団体 (少年団体等)	一 般	合 計
令和 3 年度	1,557 人	0 人	217 人	378 人	2,152 人
令和 2 年度	0 人	0 人	175 人	371 人	546 人
前年比 (増減数)	1557% (1,557 人増)	0%	124.0% (42 人増)	101.9% (7 人増)	394.1% (1,606 人増)

総利用者数については、令和 2 年度と比べ 1,606 人増となり、前年比 394.1%であった。増加の要因として、令和 2 年度は区立小学校移動教室の中止に伴い児童等利用者の受け入れがなかった一方、令和 3 年度は、移動教室が 10・11 月に実施されたことがあげられる。しかしながら、断続的に緊急事態宣言がなされ、4 月から 6 月にかけて休館したほか、青少年健全育成地区委員会による夏季キャンプの中止や、宣言期間中の新規予約受付中止、利用の自粛やキャンセルなど、新型コロナウイルスの影響が大きく、令和元年度の水準（11,471 人）までは回復していない。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

施設設備、食事提供、職員対応など、事業計画のとおり適正に管理運営が行われた。施設設備については、通常清掃に加えて、新型コロナウイルス感染症対策のための消毒作業が行われ、アンケートでも清潔な施設の維持管理が評価された。食事提供においては、地元の新鮮な食材を使用する等、安全かつ栄養バランスに配慮した食事メニューを提供するとともに、利用者が温かい状態で食べられるよう提供時間を工夫する等のサービスが行われた。職員対応については、職員による利用者への声かけや笑顔での接客等、細かな配慮と心のこもった接遇が評価され、アンケートにおける満足度が 99%と高い評価が得られた。

また、感染症拡大防止のため、体育館の器具・遊具の使用制限や、館内・食堂等の使用制限と消毒の実施等を行い、密閉空間・密集場所・密接場面を作らない対策を実施した。利用者に対しては、申込・来館の際の体調チェック、館内での手指消毒、マスクの着用といった感染対策への協力依頼を行った。

(2) 施設の維持管理

受付業務、施設内外の設備保守点検、清掃、修繕等の維持管理全般は、適切に行われた。施設の老朽化による設備の損傷や不具合が随時発生しており、施設内外を日常的に見回することで、危険箇所・破損等の把握し、簡易な補修は職員が行った。故障・不具合が発生した場合は、すみやかに報告書が提出され、施設の安全・円滑な管理運営に関わるかを精査し、緊急性や重要度を考慮した優先順位をつけて、修繕・工事費()の予算をもとに修繕した。令和3年度は、畳表替えや、ストーブ交換工事などの計13件の工事を実施したほか、消防設備保守点検・防火設備保守点検や、3年に一度実施する法定点検において異常の発見に努めた。休館中は、施設内外の補修・塗装・園庭整備などを進めた。

3 利用者サービスの向上

(1) 利便性向上事業

Wi-Fi 接続サービス、榛名湖バス停までの送迎、施設周辺状況の提供、食堂での飲料提供、キャンプファイヤー用の薪販売などによる利便性の向上事業を行っている。

また、利用者が安心・安全・快適に過ごせるような配慮や対応に取り組んだ。利用受付時には、食物アレルギーに関する事前確認を含め、寒冷的施設環境や周辺状況について細かな説明を行った。冬季利用者に対しては、到着前に部屋を暖める、廊下にストーブを設置するなどの対応を行った。施設内にはエレベーターがないため、特に車いす等障がいのある利用者や、高齢者に対しては、車を横付けできる入口に案内する、館内での移動が行いやすい部屋を優先して割り当てる等、バリアフリー未対応の施設内でも、利用者が快適に過ごせるよう意識した細やかな対応を行った。

(2) アンケートの実施

利用者アンケートの調査では、施設満足度 95%、食事満足度 94%、職員対応満足度 99%と非常に良好な評価を得た。

施設については、通常清掃に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めた清潔な施設維持に対して感謝の声が多く寄せられた。食事については味の美味しさなどが評価され、職員対応については、「親切で丁寧な対応」と評価された。アンケートで寄せられた利用者の意見・要望には極力応えられるよう改善に努めている。

4 管理運営経費の収支状況

《収入》

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設使用料	円	円
食事料金	円	円
合 計	円	円

《支出》

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
食材購入費	円	円
管理運営経費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

《差引》

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

(1) 収入

収入合計については、予算額に対し決算額が 円減の %であった。緊急事態宣言による臨時休館や、自粛要請による利用者数の減に伴い、施設使用料と食事料金の収入が見込みより大幅に減少した。

なお、新型コロナウイルスにかかる事業の中止や休館等に伴う施設利用予定者分の施設料料金については、区より補償を行っている。

移動教室・青健事業の中止に伴う事業費用および休館等による光熱水料減少相当分費用は、未履行分の委託料として、指定管理者と協議の上、合計 円が区に戻入された。

(2) 支出

支出合計については、予算額に対し決算額が 円減の %であった。収入と同様、新型コロナウイルス感染症拡大による影響に伴う利用者数の減少により食材費が大幅に減少したほか、管理運営経費についても減少した。

5 自主事業の実施状況

「バーベキューとキャンプファイヤーの集い」を、感染対策を講じたうえで、3回実施した。各回40名（計120名）の定員に対し、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるキャンセルが発生し、参加者は68名（参加率56.7%）となったが、参加者からは、食事や体験の楽しさ、利用者への個別対応も含めた接遇など、アンケート調査において高い評価を得られた。

6 所管課の評価等

（1）評価

- ① 施設の維持管理について、施設の内外ともに設備保守点検や清掃、受付業務等全般において、計画書のとおり適切に行われた。工事・修繕についても、緊急性や重要度を考慮しつつ迅速に対応していた。また、感染症対策の実施、休館期間を利用した施設の景観の改善等、柔軟な運営業務が行われた。
- ② 利用者アンケート調査において、施設満足度95%、食事満足度94%、職員対応満足度99%と非常に高い評価を得ている。特に、職員対応満足度は極めて評価が高く、利用者の立場に立った細かな配慮や心のこもった対応を常に行っていることが認められる。アンケートで寄せられた意見・要望は、施設・ホームページにて公開され、随時対応・改善に努めている。
- ③ 収支状況においても、適正な執行が認められ、全体を通して協定書及び事業計画書のとおり適正な管理運営が行われていた。
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、昨年度に引き続き、施設の消毒作業、消毒液の設置等、衛生環境の維持を前提に、利用者受け入れの際、事前説明を含めた感染予防対策への協力などが行われた。

（2）今後の課題

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

感染症対策の継続をしたうえで、引き続き心のこもった接遇サービスを維持してもらうよう依頼する。感染症の見通しは不明瞭であるが、動向を踏まえた対策を管理者と検討しつつ、対応を行う必要がある。利用者には、利用の制限について理解と協力を求めるため、申し込み時の丁寧な事前説明と、現場対応に継続して取り組んでいく。

② 移動教室・青少年健全育成への寄与

令和4年度においても、移動教室や青少年健全育成に関する事業の実施にあたり、行程作成の協力等の業務に加え、施設における感染症対策のオペレーション実施を求める。宿泊室の利用可能人数を制限、食堂のテーブルでの距離の確保といった、集団行動の中でも過密状態を避けるための運用を徹底するため、事前の学校等運営者と綿密な打ち合わせや情報共有を依頼する。

③ 施設設備の老朽化への対策

施設が改築後 37 年経過し、老朽化による設備の故障や構造物の損傷が避けられない状況である。本施設は令和 7 年度に廃止することを予定していることから、引き続き管理者と連携して、廃止に向けた調整を視野に、施設の運営において重要な設備を優先した修繕を行い、利用者が安全で快適に過ごせるような設備環境を維持する必要がある。

令和 3 年度教育科学館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

	入館者数	プラネタリウム観覧者数
令和 3 年度	127,481 人	24,807 人（うち有料投影 21,813 人）
令和 2 年度	66,704 人	6,858 人（うち有料投影 5,388 人）
前年比 (増減数)	191.1% (60,777 人増)	361.7% (17,949 人増、うち有料投影 16,425 人増)

入館者数は、60,777 人の増加（前年度比 191.1%）となった。

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）が前年同様流行し一部制限がある中でも、各種イベントの実施、地下展示室を継続して解放したことが入館者数の大幅な増加の要因だと考える。

プラネタリウム観覧者数は、17,949 人の増加（前年度比 361.7%）となり、特別投影やイベント等の実施、幼児向けの番組と小学生から大人まで楽しめる番組の配分を調整したことが、増加の要因である。

尚、令和元年度の実績は、入館者数が 203,126 人、観覧者数が 44,455 人であった。また前々年比が、入館者数 62.8%、観覧者数 55.8%であることから、今年度は前年度の実績を超えたが、コロナ前の実績への回復には至らなかった。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

令和 3 年度は、指定管理業務 3 期目の 5 年目、最終年にあたる。業務全般については、協定・事業計画を基に、必要に応じて区とコロナ対策を協議・実施しながら、適正に行われていた。3 年度に実施を予定していた事業の実施結果については、下記①～⑦のとおりである。また計画していたが、全て中止となった事業は実施結果の最後にまとめて掲載する。

尚、各事業の実施にあたっては、コロナ対策として、入館時の手指消毒・検温実施、マスク着用の義務化、プラネタリウム座席・展示物・物品等の随時消毒、施設内の適宜換気、通常時より定員を制限する等を徹底して実施した。

① 校外教授

区立小学校 52 校の 4 年生を対象に、9、10、11 月に移動教室を実施予定でしたが、9 月分の 15 校は緊急事態宣言発令のため中止となった。10、11 月分は予定通り実施し合計 37 校、2,847 名が参加した。また、10 月 27 日は天津

わかしお学校の小学校 3 年生から 6 年生、計 29 名が移動教室に参加した。

また、移動教室で来館できない学年を対象に、学校に出向き理科教育を補助する「小中学校出前授業」は、6 校 9 件実施した（前年度：4 校 9 件）。コロナの拡大、緊急事態宣言に伴う中止により、一昨年度と比較すると当該申し込み件数は減少した。しかし、申し込みのあった学校側とは実験内容に加え、コロナ感染防止の対応も相談しつつ実施した。この経験は、出前授業以外でコロナ対策を行いつつ事業を実施する上での貴重な経験となった。

② 科学展示

地下の科学展示室はコロナ拡大防止、安全維持のため、以下の措置を実施した。

- (1) 前年同様、感染リスクが高いと考えられる展示物(例えば、シアタールーム、ふしぎなへや)は使用中止。

人数制限、時間制限を設け土日祝日は事前予約制とした。

- (2) 公開終了後はその都度、マニュアルに基づき消毒を行い、換気のための時間を設けた。

- (3) 展示物は公開前にすべての機器を点検し、動作確認・清掃を行った。
このほか、「図鑑で LIVE 展」でのパネル展示、空きスペース・期間を利用しテーマに沿ったパネル展「地階ミニ科学展示」(1 階ホール)を実施した。

③ 科学教室

通常時より、定員を減らし、密を避けて実施した。

クルクルまわり灯籠、流れるサンドアート、ハーバリウムで作る海辺の世界等、子どもたちの興味を引く実験・工作教室を 12 回実施した。12 回中全てが応募者多数により抽選となった。参加者数は延べ 145 人であった。(前年度：15 回実施、参加者数延べ 151 人)。また、4 月 25 日から 5 月 31 日の臨時休館に伴い、2 回分は中止となった。

年 1 回多摩川河川敷で実施している化石発掘体験（自然体験教室）は、イベント定員 20 組の定員に対して、132 組の申し込みがあり、大変な人気であった。

④ 天文（プラネタリウム等）

昨年同様、コロナ感染防止のため定員の削減、投影後の座席・手すりの消毒、換気作業を行っての実施となった。

- (1) 4 月 1 日から 7 月 18 日まで定員を 47/197 名に、7 月 22 日から 3 月 31 日まで定員を 78/197 名に制限した。
- (2) 4 月 25 日から 5 月 31 日の期間で臨時休館、11 月 10 日から 12 月 13 日の期間で投影機の故障と、今年度中 2 度この各期間のプラネタリウムの全プログラムが中止となった。

実施した事業は以下のとおりである。

- i 一般向け投影
宇宙に関するテーマは1か月ごとに变えて毎日実施した。
- ii プラネタリウム番組
人気のキャラクターが登場するアニメ番組や学習番組を投影した。
- iii 特別投影
今年度は計10回実施し、延べ535名が参加した。
4月から7月は47席、9月から3月は78席と、通常に比べて定員を減らしての投影となったが、事前予約で満席になる回もあった。
- iv ヒーリングプラネタリウム
癒しをテーマとした投影を4回実施した。
- v お話読み聞かせ会（プラネタリウムd eおはなし会）
ドームに絵を映し絵本を朗読する事業。幼児はマスク着用が困難で長く声を発しないことが難しいため、他の幼児向け投影は中止せざるを得なかったが、本事業は家族単位でまとまり、他の家族とは距離を取るといった席のレイアウト変更をする準備期間があることから実施した。
- vi 臨時団体投影
学校等の個別の要望に応じ、投影を8回実施し計349名が参加した
- vii 星を見る会
プラネタリウムでの星座解説の後に天体望遠鏡を使い、実際の星を観望する事業である。なお臨時休館、投影機故障に伴い全9回中3回が中止となった。（1月実施分は中央図書館連携事業としての扱い）
- viii プラネタリウムコンサート
生演奏会と星空を融合させた事業。全3回の実施（令和2年3月から延期していたプログラム2回と、令和2年5月から延期していた1回を実施）。

ix 幼児団体投影

令和元年 7 月以来の実施。一部制限を設けての開催となりキャンセルも発生したが、計 375 名が参加した。

⑤ パソコン教室

小中学生向けに、レゴマインドストーム（ロボット）やプログラミングソフトを使用したプログラミング教室を 36 回実施し参加者数は延べ 164 名であった（前年度：32 回 155 名）。尚、科学館の臨時休館により 6 回分は中止となった。

また、9 歳から 16 歳の青少年を対象とした世界最大規模の国際的なロボット競技会の出場を目指すファーストレゴリーグ講座は、チームを組み大会への参加・入賞を目指す内容である。前年度は募集人数が足りず中止となったが、今回は事前にリモートを含めて実施することが確定していたため 6 組の募集があり、チームを組んで実施することができた。

この他、大人向けプログラミング教室を 1 回実施し、5 名が参加した。

⑥ イベント

平成 27 年度よりゴールデンウィーク、正月休み、春休みなどを中心に開催していた「サイエンスフェスタ」（参加者延べ 1,312 人、前年度 890 人）は、感染対策を徹底し実施した。（計 33 日間実施、前年度計 21 日間実施）今年度から、当イベントに参加するにあたりインターネット予約を電話予約と併用して開始した。

(1) あいキッズや区内団体の要望に応じて出張し、サイエンスショーを行う「出前サイエンスショー」は前年度の実施件数 2 件だったが、5 件に増え 263 名の方が参加した。

(2) 中央図書館との連携事業は、図書館 1F エントランスホールの科学館コーナーで科学館のイベント関連グッズや所蔵品を令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月にかけて展示した。また、1 月には図書館ホールで「学研科学のふろく展」を、天文指導員による「星を見る会」をそれぞれ実施した。

(3) エコポリスセンター・熱帯環境植物館・リサイクルプラザ・中央図書館との夏休み連携事業「デジタルスタンプラリー」を 5 館共催で感染対策を徹底して実施した。

またスタンプラリー実施にあたり、当イベントを宣伝するため、オンライン配信及び展示を駆使したウェルカムキッズフェスを 5 館共催で実施した。

⑦ 特別イベント

(1) 夏期イベントは、「色と光の世界」というテーマで掲示展示と合わせて、色と光を使用した体験展示等を実施した。

(2) いたばし自由研究作品展との連動を意識した、自由研究のヒントになるようなワークショップ「夏休み自由研究フェスタ」は、8月1日から8月31日の期間で実施し、参加者は1,076人であった（前年度計684人）。

全て中止となった事業は以下の通りである。

- ・ほしぞらであそぼ

幼児とその親を対象とした天文の事業。毎週水曜及び土日祝の実施と開催頻度が高く、お話し読み聞かせ会のような席のレイアウトの変更時間が時間的に困難なため、中止とした。

- ・100円ワークショップ

サイエンスフェスタと同じ日程で開催していたイベント。
不特定多数が集う事業となるため、今年度も前年同様、年間を通して中止とした。

- ・サイエンスショー

科学館の地下展示室の一角、「みんなの実験室」で行うイベント。
狭い空間で毎回多くの来館者が参加するため、密を避けるという観点から引き続き中止となった。

- ・「板橋区民まつり」、「常盤台地区のさくらまつり」への参加

前年同様、各まつり自体がコロナにより中止となった。

【事業実施について】

令和3年度は夏期イベント中の来館者が29,333人で前年度の7,766人と比べると21,567人の増加、前年比377.7%となった。一部制限を設けながらも前年中止になっていたイベントを実施できたことが大幅な増加の要因である。

(1) 今年度で9回目の開催となった「いたばし自由研究作品展」は応募作品数が過去最多の166点（昨年度77点）であった。夏休みとは言え気軽に外出することが困難な状況下だったため、児童・生徒が自由研究に専念できる時間をしっかり

りと確保できたことが理由だと考えられる。優秀作品については、令和 4 年 1 月 4 日～1 月 7 日に本庁舎 1 階イベントスペースで、令和 4 年 2 月 15 日～2 月 20 日に中央図書館 1 階図書館ホールにて展示をそれぞれ行った。

また、最優秀賞及び優秀賞の 2 作品は全国規模のコンテスト、全国児童才能開発コンテスト（公益財団法人才能開発教育研究財団主催）の科学部門に推薦し、1 作品が「財団科学賞」を、もう 1 作品が「才能開発教育研究財団理事長賞」をそれぞれ受賞した。

	2 年度	3 年度	前年比（増減数）
夏期イベント入館者数	7,766 人	29,333 人	377.7% (21,567 人増)
いたばし自由研究作品展応募数	77 作品	166 作品	215.5% (89 作品増)

（2）施設の維持管理

施設・設備の保守点検業務については、再委託業務を含め年度協定、仕様書及び事業計画書のとおり適切に実施した。また、小破修理・工事については、「科学館正面玄関の自動ドア装置交換（ 円）」や「天窓漏水部シーリング工事（ 円）」など、修繕工事を 26 件実施。 円の修繕工事の予算内で計画的に執行し、かつ緊急性の高いものは迅速に対応した。

3 利用者サービスの向上

（1）広報

ホームページや広報いたばし、科学館ニュースといった従来の広報手段に加えて、SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラム）を利用し、若年層への施設や事業の広報を行うとともに、コロナ感染拡大防止策などの情報を随時更新した。

また、科学に関する動画を計 6 本作成し、YouTube の区公式チャンネル及び区教育委員会チャンネルへ掲載した。

さらに、子どもたちがおうち時間を楽しめるよう、ブログ記事や YouTube 動画、SNS 等を一覧でみられる特設サイト「おうち de 教育科学館」を前年同様運営した。中でも、ブログは家庭でできる実験や工作、科学情報、展示紹介など 79 本の記事を掲載した。

（2）アンケートの実施

プラネタリウム投影と科学事業において、利用者アンケートを実施した。プラネタリウムは「大いに満足」「満足」の割合が 95.16%、科学事業は 96.1%と高く、指導員の親しみやすい解説と丁寧な対応が評価されている。

4 管理運営経費の収支状況

【収入】

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
国庫補助金	円	円
プラネタリウム観覧料	円	円
施設貸出使用料	円	円
各種教室参加費等	円	円
コンサート入場料等	円	円
合 計	円	円

【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
維持管理経費	円	円
事業運営費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

(1) 収入

収入については、予算額に対し決算額が %であった。

増加の要因は、各種イベントの実施により科学館の来館者数とプラネタリウムの利用者数が増加したためである。

なお、委託料については、未履行となった事業分を年度終了後に区と指定管理者で協議し、清算後、区が返還を受けた。

（未履行返還金額 円 ※上記委託料決算額は、返還後の金額）

(2) 支出

支出については、予算額に対し決算額が %であった。

各種事業を実施する際、コロナ対策の関係で当初計画していた実施方法と実際の運営方法が異なったため、決算額が減少したと考える。指定管理者の企業努力により予算額内で支出を収めている、かつ事業の未履行が無かった。

5 自主事業の実施状況

科学館の充実した設備を利用し、指定管理者の科学教育ノウハウを駆使した本格的な体験型学び事業「実験科学塾」（3 年度の実験題材：見えてくる！磁石の力、スーパーマーケットの動物学、結晶を作ろう等）では、科学に興味をもつ小学生を対象に、2 学年ごとの 3 コース（A・B コースは定員各 24 名、C コースは定員 20 名〈コロナ対策のため 1 回 100 分で実施〉）、会員制で実施し、臨時休館により中止になる時期もあったが、可能な限り、本格的な科学学習の機会を提供した。（延べ受講者数 2074 人、前年度 942 人）

他にも、他企業とのコラボや大人の科学教室を実施したが、プログラミング講座（ロボレス大会）やミュージアムショップはコロナの感染防止の観点から中止となった。

6 所管課の評価等

（1）評価

- i 指定管理 3 期目の 5 年目であり、最終年である。過去 14 年間で培った事業運営のノウハウを活かしつつ、コロナの感染対策を講じながら事業を実施し、科学館の運営に最後まで力を尽くして頂いた。

各事業実施においては、前年同様可能な限り接触を避けた内容に変更し、リハーサルも入念に行った上で実施した。

なお、各種講座等の科学事業やプラネタリウムの満足度はいずれも 95%を超えていることから、変更後の内容についても来館者から評価されていたと考えられる。

- ii 休館や事業が中止となった部分の代替業務として、コロナ禍でも自宅で楽しめる科学に関する動画や、特設サイトを活用し科学に関する記事等を作成し発信するなど、柔軟に対応したことは評価できる。

- iii 施設管理については、保守点検も計画的に実施され、修繕工事が必要な案件にも迅速に対応しており、年間を通して円滑な運営がなされたとみる。

入館者への手指消毒・検温の実施、マスク着用の義務化、プラネタリウムの座席・展示物・物品等の随時消毒、施設内の適宜換気、各事業定員の削減など、コロナ対策も入念に実施しており、大変安全な施設管理ができていたと評価する。

（2）今後の課題

- i 指定管理者変更による今後の科学館運営について

令和 3 年度をもって学研プラスの指定管理期間が終了し、CTC 共同事業体へ変更となった。新しい事業者と協力して各種業務を行う初年度になるため、

学研プラスが積み上げてきた科学館での業務実績・ノウハウを参考にしつつ所管課として指定管理者の指導監督に取り組みたい。そして現状に留まることなく、さらに安全に、さらに科学の楽しさ・不思議さを体験できるような運営方法を指定管理者と共に考え実施していく。

また、コロナにより開催が制限された小学校移動教室を令和4年度は、科学教室などで培った感染防止対策のノウハウを活用し、指導室と調整してより効果的な移動教室の実現をめざす。

ii 施設の老朽化等について

設備機器の経年劣化や老朽化による故障の発生リスクは依然として高まっており、これまでの部分的な小破修理では対応できなくなっている。また、プラネタリウムについても、現在延命措置を行っているが、故障時には代替品が生産終了により存在しない可能性もあるため、運用の限界も近づいている。これらへの対応については、令和4年度から5年度に実施予定の教育科学館のあり方検討会で最善な手法を検討していく。

令和 3 年度シニア学習プラザ指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

	利用者数	稼働率
令和 3 年度	41,740 人	51.3%
令和 2 年度	24,514 人	48.1%
前年比 (増減数)	170.3% (17,226 人増)	+3.2P

【稼働率内訳】

2021年度 年間稼働率				(ワクチン接種会場除く)			3F実働343日	4F実働283日		
室名	午前	午後	夜間	稼働可能件数	利用件数	稼働率%	総稼働可能件数	総利用件数	総稼働率	
教室 1A	74	75	59	1133	357	31.5%	2058	1242	60.3%	
教室 1B	44	47	58							
教室 1合計	118	122	117							
教室 2A	54	76	41	1168	311	26.6%	2058	1161	56.4%	
教室 2B	48	61	31							
教室 2合計	102	137	72							
教室 3	78	126	110	825	314	38.1%	1029	498	48.4%	
ホールA	163	196	145	1658	919	55.4%	1658	919	55.4%	
ホールB	113	137	165							
ホール合計	276	333	310							
集会室1	93	136	42	829	271	32.7%	829	271	32.7%	
集会室2	67	163	20	829	250	30.2%	829	250	30.2%	
計	734	1017	671	6442	2422	37.6%	8461	4341	51.3%	

利用者数は 41,740 人で、前年から 17,226 人増加（前年度比 170.3%）となった。

令和 3 年度もコロナ禍により、休館や時間短縮を余儀なくされた時期もあるが、感染拡大防止対策を講じながら運営を行った。

なお、令和 4 年 2・3 月は、4 階ホール全面及び集会室が新型コロナウイルスワクチン接種会場となった。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

令和 3 年度は、指定管理 3 年目である。利用者アンケートでも、「サービス全般的な満足度」について、「とても満足」「満足」と回答した割合は 77%であった。また、当該指定管理者が力を入れている清掃面では、91%の利用者が満足していることから、清潔かつ安定した施設管理が行われている。

(2) 施設の維持管理

施設・設備の保守点検業務については、再委託業務を含め年度協定、仕様書及び事業計画書のとおり適切に実施した。また、小破修理・工事については、緊急性や重要性を勘案し、「ホール・教室スライディングウォール（XXXXXXXXXX円）」、「3階空調室外機コンプレッサー交換（XXXXXXXXXX円）」など、計6件（XXXXXXXXXX円）を実施した。

3 事業実施状況

(1) 高齢者大学校業務支援

教科（コース）	R3 年間実施回数	R3 参加者数	R2 年間実施回数	R2 参加者数
教養課程	18 回	1,916 人	新型コロナウイルス感染拡大防止 対策のため事業中止	
専門課程 健康福祉	20 回	1,663 人		
専門課程 文化文学	20 回	1,886 人		
専門課程 社会生活	20 回	1,324 人		
大学院 健康福祉	13 回	176 人	10 回	141 人
大学院 文化文学	13 回	179 人	9 回	180 人
大学院 社会生活	13 回	119 人	11 回	245 人

高齢者大学校事業の補助業務については、会場設営・撤収、受付補助、資料印刷等、滞りなく実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策については、受付時の消毒・検温に関する丁寧な案内や、部屋・機材の消毒など、安全な事業運営が行われている（令和2年度の高齢者大学校は休止※大学院は実施）。

(2) 提案事業

指定管理事業者からの提案により実施する「提案事業」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止せざるを得ない事業もあったが、年間合計で131回の事業を実施し、1,834名の参加となった。しかしながら、コロナ禍以前の実績には戻っていない（令和元年度 217事業 8,027名参加）。

また、一部事業をオンライン活用に調整し（下表【オンライン】）、年間合計で14回実施するなど、コロナ禍により区民の学習機会が喪失することの無いように努めた。

【提案事業実施状況】

事業名	予定 回数	実施結果	実施 回数	参加 人数
GCH 地域交流 コンサート、演劇	8	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
グリーンカレッジ受講者プレゼンツ事業・夏休みグリーンカレッジ塾	12	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
GCH 周年記念行事（ホール発表会・作品展） 【オンライン】	2	通常の発表会・作品展はコロナ感染拡大防止の為中止。説明会1回・リハーサル4回オンラインにて発表。	5	147

事業名	予定 回数	実施結果	実施 回数	参加 人数
英語教室①話せる(様になる)為の英文法基礎 【オンライン】	12	4月から開講。途中、休止になり9月まで実施	12	109
英語教室②初心者コース、ステップアップコース 【オンライン】	12	6月から開講予定が7月からに変更	12	131
フラダンス教室初心者コース、 Hula 卒業発表会～メレフラ&ポットラックパーティー～	6	コロナ感染拡大防止の為中止	6	99
ウクレレ教室基礎コース ＋ウクレレ発表会 【オンライン】	12	4月から開講。途中、休止になり9月まで実施	12	246
ウクレレ教室ステップアップコース ＋ウクレレ発表会 【オンライン】	11	11月～3月まで実施ワクチン接種会場になりホールでの発表会は中止。最終日に教室にて発表に変更	10	183
オカリナ教室初心者コース	8	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
ダンス教室 【オンライン】	16	4月から開講予定が6月からに変更8月迄実施	16	108
卓球教室 初心者コース・レベルアップコース	16	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
太極拳	3	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
実用書道	12	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
水彩画教室 初心者コース・レベルアップコース 【オンライン】	19	レベルアップコースはコロナ感染拡大防止の為中止、前年度の3回分を1月から3月で開講。入門コースは1月～3月実施	11	166
鉛筆画講座 基礎コース ステップアップコース 【オンライン】	22	ステップアップコースコロナ感染拡大防止の為途中中止、前年度の作品講評・修了式、基礎コース10月～3月実施	11	163
水墨画教室 基礎コース ステップアップコース 【オンライン】	12	4月から3月まで開講。途中、休止になり12回を10回に減らして実施	11	111
デジカメ講座 初心者・ステップアップ講座	8	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
プロ鉛筆画家の作品完成までのプロセス紹介講座	1	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0

事業名	予定 回数	実施結果	実施 回数	参加 人数
オリンピックに関する話あれこれ講演	1	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
大人が読む絵本講座	1	講師の予定が合わず、「語り」に変更もコロナで中止	0	0
絵本と大人の交流会～ハープの音色と共に～	1	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
健康に関する講座（IMS）	6	コロナ感染拡大防止の為中止	0	0
脳を鍛えて楽しく健康になる講座	1	講師との都合が合わず、「セルフマッサージ」に変更もコロナで中止	0	0
シニアのための「イスヨガ」座学と運動 【オンライン】	20	前期は6月から10月まで開講。 後期は11月～3月実施予定がワクチン接種会場となり10回を9回に変更で1月終了	19	300
4コマ漫画の描き方講座 【オンライン】	6	コロナで開講時期が2月と遅れたが実施	6	71
合計	228		131	1834

4 利用者サービスの向上

（1）広報

ホームページや広報いたばし、館の広報誌「旬」といった従来の広報手段に加えて、オンラインでの発表会・作品展や講座紹介を行い、コロナ禍の中、幅広い層に向け活動周知を図った。

（2）アンケートの実施

利用者アンケートについては、通常の施設利用者アンケートと、提案事業の参加者に対するアンケートの二種類を実施している。利用者アンケート結果について、職員・スタッフの対応は「とても満足」「満足」の割合が 84.0%、施設のサービス全般の満足度は「とても満足」「満足」の割合が 77.0%となっている。なお、提案事業参加者アンケートについては、97.0%が「満足」と回答している。

施設利用、提案事業ともに、約8割の方がポジティブな回答をしていることから、現状の利用者のニーズに適切に対応できていると考えられる。

5 管理運営経費の収支状況

【収入】

項 目	予算額	決算額
委託料	円	円
補償金	円	円
施設利用料収入	円	円
合 計	円	円

【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
維持管理経費	円	円
事業運営費	円	円
修繕・工事費	円	円
本社経費	円	円
合 計	円	円

【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

（1）収入

収入については、予算額に対し決算額は、円減の％であった。

令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う臨時休業及び感染拡大防止策としての利用制限等により施設利用料収入が減少したが、施設利用のキャンセル分と、ワクチン接種会場として区が使用した分の使用料について区より補償を行ったことで、予算額に近い決算となった。

なお、コロナ禍により中止となった事業経費（未履行経費）については、指定管理者との協議により、円が区に返還された。

（2）支出

支出については、予算額に対し決算額が％であった。想定外のエネルギーコストの上昇や、修繕・工事関連経費の増加があったが、細やかな省エネや、事務費を精査するなど、企業努力により運営の質を落とすことなく予算額内に収めることができた。

6 所管課の評価等

（1）評価

① 施設管理

施設の維持管理については、保守点検や清掃、個人情報の適切な管理を含む通常の受付業務等全般において、年度協定どおり適切に行われている。

② 利用者アンケート

利用者アンケートでは約 8 割の方がポジティブな回答をしており、苦情やトラブルも報告されていないことから、利用者ニーズに適切に対応できている。

③ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

新型コロナウイルス感染防止対策については、高齢者大学事業での三密防止対策や、施設・設備の換気や消毒など、利用者に安心してもらえるようハード面・ソフト面ともに、慎重な対策を講じている。

④ 提案事業

提案事業についても、区民の学習機会が喪失することのないよう、オンラインの活用も含めた、様々な工夫により、131 回（前年比+106 回）実施することができた。

⑤ 高齢者学習支援

提案事業を契機とした高齢者への活動支援により、新規にサークル 2 団体を立ち上げることができた他、板橋区民美術展への出展をサポートし 4 名が入賞した。

（2）今後の課題等

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策緩和を見据えたオペレーション

新型コロナウイルス感染の見通しは不明瞭ではあるが、世相としては各種制限を緩和する傾向となっている。そのため、令和 4 年度には、施設利用の増加や、各種講座への参加が促進される可能性が高いため、利用者の増加が見込まれる中でも感染拡大防止策を継続できるオペレーションの検討が必要となる。

② 高齢者から多世代交流に向けた事業シフト

令和 4 年度より社会教育施設となったことから、これまでの高齢者限定の事業から、全世代向けの事業に計画的にシフトしていく必要がある。その事業シフトは、単純な参加年齢の拡大だけではなく、多世代の交流を生み出すような企画内容について研究を進める。

今後も、運営協議会や利用者の意見等を取り入れ、様々な世代の知的好奇心を充足するだけでなく、交流することで人生が豊かになる事業運営に取り組んでいく必要がある。

③ 広報活動の充実

新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に落ち込んだ利用者数を回復させていくとともに、各種事業の参加対象が高齢者から様々な世代に広がっていくことから、広報媒体の活用方法について検討する必要がある。

特に、多世代交流事業の展開を視野に、インスタグラム等の SNS を活用した若年層向けの広報活動を強化していく。

令和 3 年度郷土芸能伝承館指定管理業務にかかる事業報告の概要

生涯学習課

1 施設利用状況

	利用件数	利用人数
令和 3 年度	626 件	7,538 人
令和 2 年度	574 件	6,628 人
前年比（増減数）	109.0%（52 件増）	113.7%（910 人増）

【利用件数内訳】

単位：（件）

	集会室			練習室			合計
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	
令和 3 年度	33	86	23	69	176	239	626
令和 2 年度	31	89	49	54	169	182	574
増減	2	－3	－26	15	7	57	52

令和 3 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用を自粛する傾向が見られ、全体的な利用率は 33.9%にとどまった。

また、前年度との比較では、施設利用件数が 52 件増加した。主な要因として、新型コロナウイルス感染症にともなう休館・夜間貸出中止が、前年度よりも短期間であったことに加え、ワクチン接種等により利用自粛の傾向が弱まったことが挙げられる。

※なお、令和元年度の利用件数は 908 件（15,143 人）であり、令和 3 年度においても新型コロナウイルス感染症流行以前の利用水準までは回復していない。

2 管理運営業務実施状況

(1) 施設の管理運営

令和 3 年度は、5 年間の指定管理期間の 2 年目にあたる。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、施設の休館や利用制限等を設けての運営となった。管理業務全般については、基本協定・年度協定通りに実施され、施設貸出、設備の保守・修理、企画・運営協議会等各種会議への出席等、適切に施設の管理運営が行われている。

指定管理者本社と現地、また、教育委員会との間においても密な連携をとるなど、適切な施設管理・運営に努めている。

(2) 施設の維持管理

建築物環境維持管理、清掃、植栽、樹木等の維持管理、保安・警備業務については、仕様書どおり法定点検、日常点検を実施している。また、これら全般については、建築基準法、消防法、フロン排出抑制法等の関係法令や個人情報保護に関する取扱基準等を順守し管理を行っている。

なお、令和3年度の小破修理・工事については、「1F 誘導灯修繕 ()」「B1F 男女トイレ排水不良修繕 ()」「1F 空調修繕 ()」「B1F トイレ排水管詰まり改修工事 ()」「1F 空調修繕 ()」の計5件 ()円を実施し、令和3年度の小破修理・工事費用は 円となった。

3 自主事業の実施状況

施設の設置目的の範囲内において、施設の価値を高め、利用者層拡大を図る等の目的で、指定管理者の自己資金と創意工夫による自主事業を実施している。

令和3年度は、年間13回の事業実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施10回、中止3回となった。実施した10回については、感染防止対策を徹底したうえで開催し、利用登録団体以外の地域住民が郷土芸能伝承館へ足を運ぶこときっかけとなったことで、施設の周知に寄与した。

	開催日	時 間	内 容	定員	参加人数	参加費
1	4月24日	①13:00～14:00 ②15:00～16:00	まゆ玉でクラフト (こいのぼり)	18人 ×2回	27人	500円
2	5月29日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	どんぐりのぼうしでハリネズミを作ろう	18人 ×2回	35人	350円
3	6月19日	①13:00～14:00 ②15:00～16:00	ふしぎ発見クラフトキッズ (スライムづくり)	18人 ×2回	35人	500円
4	6月26日	14:00～16:00	無料映画上映会 (ローマの休日)	18人	10人	無料
5	中止	—	和紙ちぎり絵	—	—	—
6	中止	—	理科教室 (ガイコツ教室)	—	—	—

7	中止	—	小さな夏祭り	—	—	—
8	10 月 24 日	①11:00～12:00 ②14:00～15:00	はじめての和 楽器体験会	18 人 ×2 回	20 人	100 円
9	10 月 30 日	14:00～16:00	郷土芸能講座 (田遊びの世界)	18 人	14 人	60 円
10	11 月 20 日	①13:00～14:30 ②15:00～16:30	どんぐりぼう しでハリネズ ミを作ろう	18 人 ×2 回	39 人	350 円
11	12 月 25 日	14:00～16:00	無料映画上映 会 (雨に唄え ば)	24 人	11 人	無料
12	2 月 5 日	14:00～16:00	郷土芸能講座 (田遊び上映 会)	20 人	11 人	無料
13	2 月 19 日	①13:00～14:00 ②14:30～15:30	まゆ玉でおひ なさまを作ろ う	7 人 ×2 回	13 人	500 円

4 利用者サービスの向上

- (1) 施設利用の受付について、三密を回避するため、従来実施していた毎月 1 日の一斉受付を廃止し、令和 2 年 5 月から郵送による受付を実施している。予約のために施設へ足を運ぶ必要がなくなり、利便性が向上したことで、利用者より好評を得ている。
- (2) 施設がバリアフリー化されていないため、障がい者や高齢者が利用する場合には、職員が積極的に声かけやサポートを行っている。施設職員の対応について、令和 3 年度利用者アンケートでは「満足」「やや満足」の回答が約 88%を占めた。

5 管理運営経費の収支状況

【収入】

項 目	予算額	決算額
指定管理料	円	円
施設使用料	円	円
補償金（利用キャンセル分）	円	円
合 計	円	円

【支出】

項 目	予算額	決算額
人件費	円	円
施設・設備維持管理費	円	円
修繕・工事費	円	円
修繕・工事費（空調）	円	円
備品購入費	円	円
備品購入費（クーラー・ エアコン）	円	円
ホームページ制作・運用費	円	円
保険料	円	円
租税公課	円	円
本部経費	円	円
合 計	円	円

【差引】

項 目	予算額	決算額
差引（利益）	円	円

(1) 収入

収入について、予算額に対して決算額が 円減の %であった。
施設利用料の減少については、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等により、令和3年4月26日～5月11日を休館、令和3年5月12日～5月31日を夜間貸出中止としたことに加え、施設利用を自粛する団体が多数あったことが大きな要因と考えられる。

【参考：施設利用収入の比較】

平成30年度： 円

令和元年度 : [] 円

令和 2 年度 : [] 円

令和 3 年度 : [] 円

(2) 指定管理者に対する補償等

感染症拡大防止等を理由に指定管理者が施設利用予定者に還付した施設利用料については、令和 3 年 10 月 21 日付 3 板政経第 53 号に基づき、還付利用料相当額 [] 円を補償した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により未履行となった指定管理料（休館等に伴う光熱水料減少相当額）については、[] 円が区に返還された。

(3) 支出

支出については、予算額に対し決算額が [] 円減の [] %であった。減少の理由について、人件費及び水道光熱費の減少があげられる。

人件費については、予算額に対する決算額が [] 円減の [] %であった。これは、令和 3 年 12 月に前副館長が退職したことに伴い、人件費単価が変動したことによるものである。また、水道光熱費については、予算額に対し決算額が [] 円減の [] %であった。これは新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言に伴う、休館及び夜間貸出中止が大きな要因と考えられる。

【参考①：人件費の比較】※令和 2 年度～指定管理者が変更となっている

平成 30 年度 : [] 円

令和元年度 : [] 円

令和 2 年度 : [] 円

令和 3 年度 : [] 円

【参考②：光熱水費の比較】

平成 30 年度 : [] 円

令和元年度 : [] 円

令和 2 年度 : [] 円

令和 3 年度 : [] 円

6 所管課の評価等

(1) 評価

① 月次報告及び四半期に一度実施する履行確認の結果、施設の維持管理については、保守点検や清掃、通常の受付業務等全般にわたり、区が求める管理基準を満たしている。日々の管理運営についてもサービス水準書の基準を満たせるよう、実行しているものと評価できる。

② 利用者アンケートでは、特に職員対応、館内の清掃・衛生面が高い評価を得

ており、総合的な郷土芸能伝承館に対する満足度は 88%と高い評価を得ている。

- ③ 収支状況においても、適正な執行が認められる。全体を通して協定書及び事業計画のとりの管理運営が行われているものと判断する。
- ④ 新型コロナウイルス感染予防対策のため、施設の休館、利用制限、利用の自粛を求めるなどの対応を行った結果、利用率の低下につながったと判断する。

(2) 今後の課題

- ① 令和 2 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染予防対策のため、施設の休館、利用制限、利用の自粛を求めるなどの対応を行っているため、今後も利用率の低下が想定される。

利用件数の増加に向けて、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら、指定管理者の自主事業による施設の周知・活用事業等の実施を行っている。令和 4 年度においては、郷土芸能施設の特色をさらに活かした事業展開を実施し、引き続き利用率の向上を働きかけていく。

【参考：利用率の比較】

●集会室

平成 30 年度：24.5%

令和元年度：24.7%

令和 2 年度：20%

令和 3 年度：18.3%

●練習室

平成 30 年度：70.7%

令和元年度：62.3%

令和 2 年度：49%

令和 3 年度：47.8%

- ② 施設・設備については、今後も経年劣化により不具合が増えることが予想される。令和 3 年度においては、空調設備の故障により令和 3 年 8 月の間、集会室を利用中止とせざるを得なかった。また、太鼓の修繕について以前から要望の声があがっており、令和 4 年度から順次修理に着手する計画である。設備不具合については、常に注意を払い早期発見・対応に努める。
- ③ 施設管理・運営については、利用団体からの一定の評価を受け、満足度は高い状況である。利用者アンケートの意見等を踏まえて、利用者がより安全・安心を感じ、快適に利用できるよう指定管理者の指導・監督にあたる。